政　務　活　動　旅　行　報　告　書

1　視察日

平成30年4月13日(金)

2　視察者

江村　力

3　視察先

大阪府 寝屋川市

4　視察項目

英語村(英語力向上プラン)事業について

5　視察目的

本市小学生中学生の英語力向上の参考とするため

6　視察内容

(１)寝屋川市の概況

寝屋川市は、昭和26年5月3日、大阪府内で16番目の市として誕生した。昭和36年には水本村と合併し、昭和41年に一部が大東市に編入されて、現在の寝屋川市域となった。戦後の経済復興が始まると、市域しては昭和30年代後半から人口の増加が始まり、高度経済成長期には、大阪へ勤務する人たちの手頃な住居地として、また、整備されてきた道路交通網を利用した企業の工業用地として利用され、昭和50年には人口25万人を突破するなど住宅都市として大きく変貌を遂げた。その後、人口は、少子高齢化の進展、人口減少の到来などにより、平成7年の26万人をピークに減少に転じ、平成27

年度からは23万人で処理している。また老齢人口が増加するなど高齢化は急速に進んでいる。

このように市を取り巻く社会環境が大きく変化する中、平成12年度には、地方分権一括法が施行され、平成13年4月から特例市に移行するなどにより、まちづくりや生活環境等に関する権限が異常されたことで、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを自らの責任で行っている。

平成23年度から第5次寝屋川市総合計画がスタートし、町に住み、働き、学ぶ市民の力をまちづくりに結集し、みんなが誇れる住みよい街の実現に向け、取り組みを進めている。

平成27年度には、人口減少に積極的に対応するため、寝屋川市人口ビジョン及び寝屋川まち、ひと。しごと創生総合戦略を策定し、本市に住みたい住み続けたいと思っていただくための政策、事業を推進している。

（２）英語村

英語村（ 英語力向上プラン）事業は、 子供達に英語を使う必然性のある「英語だけの場」を設け、日頃の授業で学んだことをいかにして、英語が通じた喜びを得、学ぶ意欲を高め、コミュニケーションの向上を図る。さらに、授業で身につけてきた英語力の向上を目指すことを目的とした事業である。

（ⅰ）小学校「英語村」は

5、6年生が小学校ごとに全員参加し、外国人英語講師とボランティアスタッフと英語だけで9時30分から14時30分まで活動している。歌やゲーム、ネームカードを作り、単元最後の授業では、読み聞かせ等もする。

6年生は音声と文字に関わる活動もし、休み時間やお弁当も外国人英語講師と一緒に過ごしている。

（ⅱ） 中学校「英語村」は

1年生から3年生の希望者が参加している。主に水曜日の放課後や長期の休みなどに開催し、外国人英語講師とテーマに沿った英語での会話やプレゼンの練習、英検の模擬面接などもしている。また各中学校や地域のコミュニティセンターにも出張している。

（ⅲ）幼稚園「英語村」は

平成29年度より開始された。幼稚園5歳児が園ごとに全員参加している。外国人英語講師とボランティア、スタッフと英語だけで活動する時間と小学生6年生と一緒に活動する時間があり、歌やゲーム、ネームカードを作り等をしている。

このように、教育研修センターを利用し、幼稚園、小学生、中学生が外国人英語講師、及び英語村事業支援人材等と英語だけで活動している。

7　岡崎市への提言

寝屋川市の中学3年生は、文部科学省の英語教育実施状況調査（平成28年度）によると、英検3級以上を取得している割合が60%と全国よりもかなり高い結果となっている。これは英語村で「子供達が1日英語だけで過ごす」「複数の外国人と過ごす」ということにより学校とは違う特別の場所としての認識で、効果が得られていると思われる。また、状況や表情、ジェスチャー、実物や絵カードなどから類推して考えたり、自ら気づいたりするようになり、曖昧さへの寛容性の育成が図られ、英語を英語のまま理解する感覚が身についた結果でもある。

本市でも10年前から英語教育には随分力を入れてきている。さらにこの力を今一歩伸ばすためにも本市も「英語村」事業を導入していくべきである。